

建設関係（1当運転者）の交通事故実態

●事故の推移（過去）10年

発生件数と傷者は平成12年の3,325件、4,364人をピークに9年連続減少傾向で推移している。死者は平成12年をピークに30～94人で増減している。平成21年中の全事故に占める割合は発生件数が7.0%（前年比-0.2%）、死者数は15.6%（前年+1.1%）、傷者数は7.0%（前年比-0.3%）となっている。

年別	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	平均
発生件数	3,325	3,324	2,646	2,343	2,144	2,076	1,831	1,763	1,523	1,370	2,224.5
死者数	94	75	64	52	40	30	31	37	33	34	49.0
傷者数	4,364	4,248	3,497	3,067	2,754	2,660	2,291	2,198	1,879	1,660	2,861.8
死傷者計	4,458	4,323	3,561	3,119	2,794	2,690	2,322	2,235	1,912	1,694	2,910.8

●時間別発生状況

時間別	00-02	02-04	04-06	06-08	08-10	10-12	12-14	14-16	16-18	18-20	20-22	22-24	計	平均
発生件数	19	13	29	189	190	153	138	129	200	188	90	32	1,370	114.2
死者数	1	2	2	5	5	1	3	2	3	6	3	1	34	2.8

●曜日別発生状況

曜日別	日	月	火	水	木	金	土	計	平均
発生件数	166	218	195	189	197	222	183	1,370	195.7
死者数	5	5	8	7	4	3	2	34	4.9

●道路別発生状況

道路別	国道	道道	市町村	高速	その他	計
発生件数	324	284	700	11	51	1,370
死者数	13	9	12			34



協賛

北海道砂利工業組合／北海道生コン輸送協会／(社)日本砕石協会北海道地方本部／(社)北海道トラック協会

後援

●北海道開発局／北海道労働局／北海道運輸局／北海道森林管理局／鉄道・運輸機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局／東日本高速道路(株)北海道支社
●北海道／北海道警察／北海道市長会／北海道町村会／(社)北海道交通安全推進委員会

構成団体

建設産業交通安全推進北海道本部((社)北海道建設業協会)札幌、函館、室蘭、小樽、空知、留萌、旭川、帯広、釧路、網走、稚内の各地方建設産業交通安全推進地方本部(各地方建設協会)／建設業労働災害防止協会北海道支部／(社)日本土木工業協会北海道支部／(社)北海道舗装事業協会／(社)北海道電業協会／(社)北海道空調衛生工事業協会／北海道鉄筋業協同組合／北海道塗装組合連合会／北海道建設解体工事業協同組合／(社)北海道土木工業連合会／北海道左官業組合連合会／北海道管工事業協同組合連合会／(社)北海道造園緑化建設業協会／北海道造園組合連合会／(社)北海道農業建設協会／(社)北海道建築工事業組合連合会／(社)北海道森林土木建設業協会／札幌中小建設業協会

総ぐるみ運動

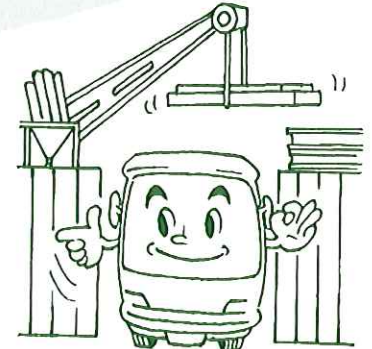
運動の目標:建設産業関係者による交通事故死ゼロの達成

運動の目的

平成22年度の工事着工期を迎えるにあたり、建設産業関係者の交通事故抑止に向けて、関係機関が一丸となって交通安全総ぐるみ運動を展開し、交通ルールの遵守と交通マナーの実践を習慣づけることにより交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。



スピードの出し過ぎと
飲酒運転の防止

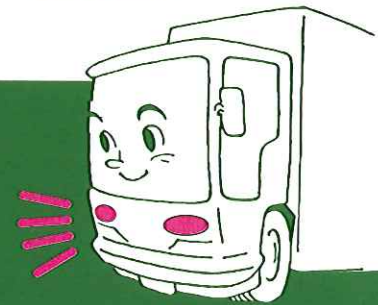


工事現場周辺道路における
事故防止の徹底



過労運転及び
過積載運行の防止

子供と高齢者の
交通事故防止

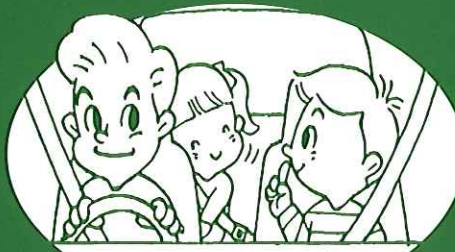


デイ・ライト(昼間点灯)
運動の推進

通年展開

デイ・ライト(昼間点灯)
運動実施中!

～昼間点灯で交通事故減少の効果!～
皆さん是非参加してください。



全ての座席の
シートベルト・チャイルドシートの
正しい着用の徹底

実施期間

平成22年 5/1(土)～6/30(水)

主催：建設産業交通安全推進北海道本部

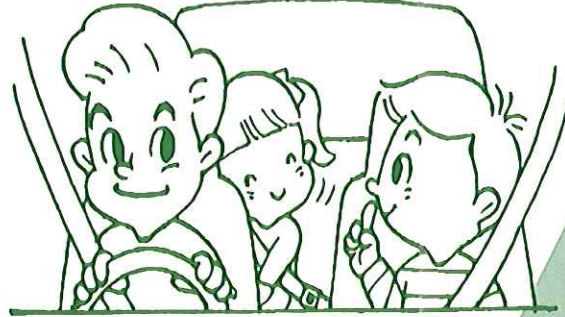
交通事故死ゼロの達成を!!

平成22年度の工事着工期を迎えるにあたり、建設産業関係者の交通事故抑止にむけて、関係機関が一丸となって交通事故防止総ぐるみ運動を展開し、交通ルールの遵守と交通マナーの実践により、交通事故防止を徹底しましょう!

シートベルト・チャイルドシートの正しい着用の徹底

全ての座席の

シートベルトの非着用理由は次の3つです。●「近くまでだから」●「面倒だから」●「うっかり忘れていた」。着用効果について知っていながら、しかも毎日運転しているにもかかわらず装着していないのです。非着用時の事故の死傷率は、着用時の10倍以上! 死傷者の半数はシートベルトをしていれば助かったと言われています。チャイルドシートも同様。ただし、正しく装着されていないと非着用時と同様に危険です。あなた自身と、大切なお子さまを守るために、「乗ったら着用」を徹底しましょう。

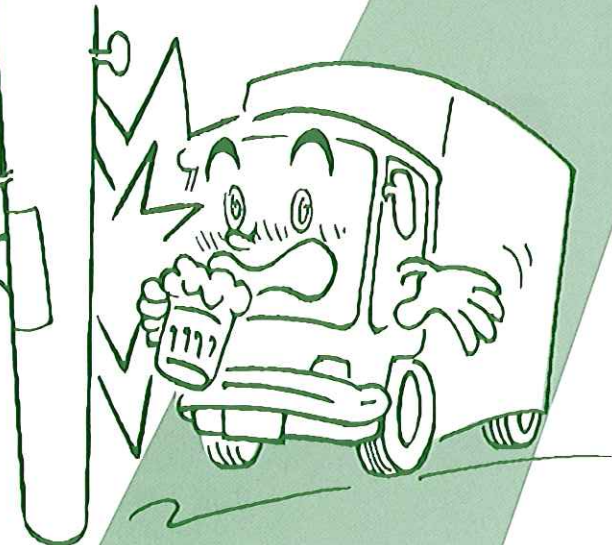


■高齢者の行動特性
近づく車の速さや距離の見極めが苦手
横断途中の安全確認が手薄

子供と高齢者の交通事故防止

歩行中・自転車乗車中に特に多い子供と高齢者の交通事故実態からわかることとして、彼らの行動特性が事故の発生に多分に影響している点が挙げられます。ドライバーは交差点や駐車車両の死角など周囲への注意を怠らず、上記のような行動特性を十分に理解し思いやりを持って安全運転に努めることが重要です。また、高齢者が第一当事者(運転者)の場合も増加傾向にあり、時間帯では視界の悪くなる薄暮時、事故類型は正面衝突・車両単独が多くなっています。

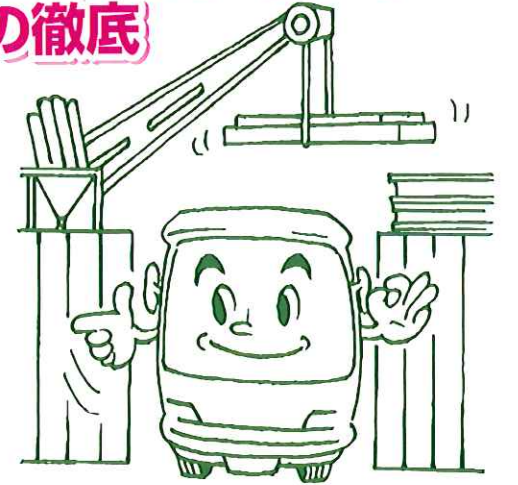
■子供の行動特性
一つの事柄に気がとられると周囲の状況を気にかけない
信号無視など大人の行動を真似たがる



飲酒運転の根絶

全国の運輸業界を含めタクシー、バス業界など会社ぐるみで運転者の安全管理のため、アルコール検知器の導入など様々な努力をしていると共に飲酒運転の厳罰化がどんどん進んでいるにも拘わらず、一向に飲酒運転による悲惨な事故はなくなりません。「飲んだら乗るな、乗るなら飲むな」をドライバーの合言葉に飲酒運転根絶!「0」を目指しましょう。

工事現場周辺道路における事故防止の徹底



トラックや特殊車両の出入りが激しい工事現場周辺道路は危険がいっぱいです。現場の整理整頓はもちろん、「死角」のできにくい環境づくりにも努めましょう。また、職場内では交通安全教育を推進し、一人一人に安全速度の遵守や安全確認の徹底をさせ、交通安全に対する意識を高めることも重要です。「毎日事故ゼロ」を目指し、実践するには一人一人の自覚が何より大切です。

交通事故死



過労運転及び過積載運行の防止

過労は「居眠り運転」「ぼんやり運転」につながり、大きな事故の原因となります。トラックの運転は特に目の疲労度が高く、毎日の安全運転には日頃の健康管理が不可欠です。また、過積載は制動距離を伸ばし、カーブでのハンドル操作も不安定になるといった危険が生じます。積載に関しての法律を知ること、積載物の重量や積荷の種類・状態をしっかり把握すること、これらが未然に事故を防ぐキーになります。

スピードの出し過ぎ防止

道内の長く単調で広い道路における速度超過に起因する事故が多い。

■建設業関係(1当運転者)の交通事故実態

違反別	酒酔い	最高速度	追い越し等	歩行妨害	信号無視	一時不停止	過労運転	安全運転義務違反				その他
								操作不週	前方不注意	安全不確認	その他	
発生件数	2	6	21	28	72	74	1	185	291	427	33	101
死者数	2	2	1	2	1	1		5	10	4		3